

令和7年度 墨田区立横川小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 森村 聡彦

学校教育目標	すすんで学ぶ子ども からだをきたえる子ども なかよく助けあう子ども
目指す学校像	新たなことに挑戦する生き生きとした魅力的でエレガントな学校
目指す児童像	主体的な挑戦力と突破力をもった児童
目指す教師像	機動的挑戦と勇気ある合理的撤退を念頭に、墨田のさきがけとなる教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容
 ・主体的な挑戦力と突破力をもった児童を育てる指導
 ～指導方法の改善と学校組織の進化
 ・新たなことに挑戦する生き生きとした魅力的な学校経営

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
各教科指導等	確かな学力を全ての児童につけさせる	・週2回の全校朝読書活動などの、基礎学力と言語活動の充実した取組を行う。 ・全ての教科学習の基礎となる文章の読解力を育む。	4	全16学級による静寂な朝読書の実施率100%	2	4	学力調査(国語：知識技能)全国平均を5学年上回る	朝は出欠確認など忙しく、突発的な対応などがあると担任は忙殺される。授業の中で文章に触れ、読み取る力を育む指導を工夫する必要がある。	読解力の育成は短時間ではできない。児童には学校ではわずかでも朝読書の時間を必ず確保し、家庭でも本に触れる機会を増やし、活字を目で追う読書に親しむ習慣をもたせたい。	B	B	
			3	全16学級による静寂な朝読書の実施率 95%		3	学力調査(国語：知識技能)全国平均を4学年上回る					
			2	全16学級による静寂な朝読書の実施率 85%		2	学力調査(国語：知識技能)全国平均を3学年上回る					
			1	全16学級による静寂な朝読書の実施率 85%未満		1	学力調査(国語：知識技能)全国平均を全学年下回る					
	教員の指導力・授業力向上のための取組	・全授業時間のうち20%以上でタブレットを効果的に使用する。 ・従来のノート指導の良さも生かし、バランスよく授業にICT機器を活用する。	4	授業での活用状況 全授業時間(コマ)の25%以上	4	4	積極的にICT機器を活用する教員の割合 90%以上	教員はタブレットや電子黒板を積極的に活用しており、児童も機能をよく理解し、使いこなしている。	板書を併用して、授業の流れの中で導入から展開、まとめへと進み、最後に学んだことを確認してアウトプットする振り返りまでの指導法を確立させたい。	A	A	授業では紙の教科書を基本に使い、デジタル教科書を応用で使ってはいかがか。「書く」ことを大切にして指導して欲しい。
			3	授業での活用状況 全授業時間(コマ)の20%以上		3	積極的にICT機器を活用する教員の割合 80%以上					
			2	授業での活用状況 1日に1回以上		2	積極的にICT機器を活用する教員の割合 50%以上					
			1	授業での活用状況 1日に1回未満		1	積極的にICT機器を活用する教員の割合 50%以下					
	個に応じた指導の工夫	・算数科における習熟度別少数指導を、従来の都費少数教員の他、都費時間講師もあてて展開を増やし、連携して効果的に実施する。 ・習熟度に応じた適切な課題を個別に与える。	4	事前に準備された教材教具での実施状況100%	3	4	学力調査(算数)C,D層の分布状況全体の10%未満	個に応じた指導を意識して授業を展開してきた。5つの学年で全国平均値を上回っており、わずかに下回った学年も昨年度より得点が伸びているが、高学年はD層が30%を超えている。	少数展開を生かした指導法を抜本的に見直し、計画的に基礎学力の充実を図る。課題が終了した児童には適切な個別の応用問題をタブレットで与え、学力をさらに伸ばさせる。	C	B	
			3	事前に準備された教材教具での実施状況 90%		3	学力調査(算数)C,D層の分布状況全体の10%以上					
			2	事前に準備された教材教具での実施状況 80%		2	学力調査(算数)C,D層の分布状況全体の15%以上					
			1	事前に準備された教材教具での実施状況 80%未満		1	学力調査(算数)C,D層の分布状況全体の20%以上					
特別な支援を要する児童への組織的な対応	・Teamsを活用して、教職員間の即時情報共有と迅速な対応を行う。	4	初動対応に要する日数 即時対応・解決	4	4	解決に要した日数 即時解決	特別な配慮を要する児童の指導を担当1人に任せきりにせず、人手を要する場合には遠慮なく内線電話で応援を呼べるよう、意識付かせた。	今後もこれまで以上に管理職も担任のサポートに入り、生活指導上の課題には即応体制で解決にあたり、保護者とも連携して指導を継続していく。	B	B		
		3	初動対応に要する日数 当日中に対応・解決		3	解決に要した日数 即日解決						
		2	初動対応に要する日数 当日対応・翌日解決		2	解決に要した日数 翌日解決						
		1	初動対応に要する日数 当日対応・継続対応		1	解決に要した日数 2日以内に解決						
児童の規範意識醸成に向けた生活指導項目と目標の教職員全員の共通理解と凡事徹底指導	・校帽の着用徹底を、登校時と下校時に指導する。 ・偏食による給食の残さを減らすよう、丁寧な給食指導を続ける。	4	登下校、給食時の声掛け指導 全ての教員が毎日	4	4	校帽着用率100% 主菜副菜残量3%以下	全ての教員が課題意識をもって指導にあたってきた。小さなことも見逃さない指導に根気よく取り組み、規範意識を維持している。また、魚介類の偏食をなくすことができた。	校帽の着用は特に女兒の髪型によって左右されるのは仕方ないとしても、ただ単に面倒がったり、ルーズな気持ちで手に持って登下校する児童の指導は継続していく。	B	B	地域での挨拶が、さらに活発にできるようになるとよい。	
		3	登下校、給食時の声掛け指導 一部の教員が毎日		3	校帽着用率95%以上 主菜副菜残量5%以下						
		2	登下校、給食時の声掛け指導 全ての教員が時々		2	校帽着用90%以上 主菜副菜残量10%未満						
		1	登下校、給食時の声掛け指導 一部の教員が時々		1	校帽着用90%未満 主菜副菜残量10%以上						
不登校の予防と解決に向けた取組	・全教職員の共通理解のもと、機動的に対応し、担任を支援する。 ・積極的に外部機関との連携を図り、短期解決に向け尽力する。	4	不登校児童の保健室登校 毎週2回	4	4	不登校児童の出現数 全校427名で0名	生活指導や特別な支援を要する児童への対応力は、組織的に向上している。担任1人では指導しきれない児童を、多くの教職員が関わることで支えられるようになった。	新たな不登校児童の発生を未然に防ぐために、小さな兆候が表れた時に担任以外の教職員がアプローチするなどして、多くの解決の選択肢を準備しておく。	C	B		
		3	不登校児童の保健室登校 毎週1回		3	不登校児童の出現数 全校427名で1名のみ						
		2	家庭との定期連絡状況 2日に1回		2	不登校児童の出現数 全校427名で2名以下						
		1	家庭との定期連絡状況 1週間に1回		1	不登校児童の出現数 全校427名で3名以上						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価					
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等			
	教職員のライフワークバランスの支援	・年次有給休暇の取得を奨励する。 ・各種特別休暇の周知と取得活用を案内する。 ・業務の精選と削減に不転の決意で取り組む。	4	月平均残業時間の削減 平均30分短縮	4	4	平均年次有休取得日数 19日以上	3	児童が在籍している時間に年次有給休暇は取得しにくいので、児童下校後は会議の時間を調整するなどして、時間休暇を取得しやすい環境を整えた。	教職員自らの健康と、各家庭の幸福を念頭におきながら、公教育の使命を忘れずに勤務できる条件整備に全力をあげる。	B	A	安全確保と人権上の配慮のバランス判断など、対処が難しい案件などがあって大変だと思うが、教職員の健康やストレス軽減にも気を付けて欲しい。	
			3	月平均残業時間の削減 平均15分短縮		3	平均年次有休取得日数 18日以上							
			2	月平均残業時間 現状維持		2	平均年次有休取得日数 15日以上							
			1	月平均残業時間 時間増		1	平均年次有休取得日数 15日未満							
学校 の 管 理 運 営	使命感に満ち、生き生きとした教職員集団の実現	・働き方改革を、責任をもって積極的に推進する。 ・担任への同僚からの支援や、上司からの支援を促進する。	4	相談・報告・声掛けの状況 毎日適宜	4	4	ストレスチェック指数 60(独自目標)	3	形式的な校内文書や作業などを極限まで削減し、不要な校則も廃止して教員の指導事項を減らした。教職員には、自身の健康と家庭の幸福を優先する意識改革を進めた。	まず教職員が笑顔でいなければ、目の前の児童を幸せにはできない。「幸せになるために生きている」をモットーに、現在の明るく前向きな職場の雰囲気を維持する。	A	A		
			3	相談・報告・声掛けの状況 1日に1回程度		3	ストレスチェック指数 70(独自目標)							
			2	相談・報告・声掛けの状況 1日に1回未満		2	ストレスチェック指数 82(墨田区平均)							
			1	相談・報告・声掛けの状況 2日に1回程度		1	ストレスチェック指数 100(全国平均)							
	服務事故未然防止の取組	・体罰や不適切な指導を根絶する ・適切に文書を管理し、確実な保管を徹底する。	4	注意喚起・服務事故防止指導 毎週1回	3	4	服務事故件数 0件	4	身近な事例を挙げ、機会あるごとに服務事故防止の意識を高めてきた。地方公務員であるとともに「教職」に対する都民の負託に応えるよう誠実さを指導してきた。	引き続き油断することなく、指導の未熟さや熱心さから発生する行き過ぎた暴言や体罰、放漫な管理から起きる個人情報紛失などの防止に全力を挙げて取り組んでいく。	A	A		
			3	注意喚起・服務事故防止指導 毎月2回以上		3	服務事故件数 0件							
			2	注意喚起・服務事故防止指導 2週に1回		2	服務事故件数 0件							
			1	注意喚起・服務事故防止指導 毎月1回		1	服務事故件数 区教委口頭注意程度 1件							
家庭・ 地 域 連 携	教育方針や教育活動の様子を分かりやすく伝える取組	・毎月発行している学校だよりを月初めにホームページに更新し、その他の情報も速やかに掲載する。 ・保護者会での校長講話などの機会を増やし、広報周知する。	4	ホームページ定期更新 毎週1回以上	2	4	学校評価満足度 90%以上	4	例月の学校・学年だよりは安定して発行できたが、ホームページの更新は多忙な教員が勤務時間内に校務分掌で行うには無理があった。	日常的な授業や教育活動に保護者による補助を依頼することで、教育効果の向上と教員の負担軽減、保護者には教育活動の理解と情報公開が期待できる。	B	A		
			3	ホームページ定期更新 月に3回以上		3	学校評価満足度 80%以上							
			2	ホームページ定期更新 月に2回以上		2	学校評価満足度 80%未満							
			1	ホームページ定期更新 月に1回以上		1	学校評価満足度 70%未満							
		保護者や地域の理解、協力を得た教育活動の取組	・本所中学校や本校学区内の幼稚園、保育園との交流活動の実施。 ・横川地区連合子供育成会主催のスポーツラリーなどをPTAと共催で実施する。	4	左記の活動頻度 月2回	2	4	学校評価満足度 90%以上	3	幼保小中間の交流は、引継ぎのための情報交換と、異校種間の授業公開、1時間あまりの中学校見学を行うにとどまっている。	働き方改革が目指す健全な勤務の実現を果たす上で、隣接ではない物理的に離れた各施設の教職員との交流は、無理のない範囲で充実させていくしかない。	C	B	不審者侵入事案について不安に感じている保護者もいるので、できる限りの情報公開と、不審者侵入対応訓練を実施して欲しい。
				3	左記の活動頻度 月1回		3	学校評価満足度 80%以上						
				2	左記の活動頻度 2か月に1回		2	学校評価満足度 80%未満						
				1	左記の活動頻度 3か月に1回未満		1	学校評価満足度 70%未満						
			4			4								
			3			3								
			2			2								
			1			1								

○令和7年度 学校経営報告のまとめ（総括）

・教職員の職務に対する前向きな改革姿勢によって、学校の教育活動が活性化され、児童がのびのびとした学校生活を送っている。単なる前例踏襲を廃止し、学校環境の整備に向けて機動的挑戦と合理的撤退を進めたことは、保護者や地域の方々にも評価されており、学校への惜しみない協力の礎となっている。

・児童は明るく素直である。全児童の基礎学力の充実に向けて、より高みを目指す意識を教職員にも育てていきたい。